

# 第3学年 社会科学学習指導案

紫波町立紫波第二中学校

日時 平成18年10月2日(月) 5校時  
学級 3年1組(男子15名 女子18名 計33名)  
授業者 佐々木節子

## 1 単元 第3章 現代の民主政治と社会 第3節 地方の政治と自治 2 地方分権と住民参加

### 2 単元について

#### (1) 単元について

この単元は、身近な事例を通して現代日本の政治に関心を持たせ、わが国の民主政治の考え方としくみを理解させるとともに、現代日本の政治の動きを多面的・多角的にとらえる活動を通し、「将来の主権者」「地域住民」であることを自覚させ進んで政治に関わっていこうとする態度を育てるものである。

特に第3節では、「民主主義の学校」と呼ばれる「地方自治」を身近な地域の政治や住民の政治参加など具体的な事例や制度を取り上げながら取り組ませ、「地方自治」が、直接民主制をとっている理由や「まちづくり」の重要性に気づかせ、地域の特色ある政治や住民の政治参加、地域づくりのあり方について「地域住民」の立場から積極的に参加していこうとする態度を育てようとするものである。

#### (2) 生徒の実態

社会科に対する興味・関心は、特に男子が高く、毎日のニュースが授業で話題になることも多く、そのしくみについて関心をもって授業に参加する生徒も多い。しかし、教科書の内容を覚えることに終始するため表面的な学習となっている生徒もいる。発言や挙手が少なく特定の生徒に限られる傾向にある。

社会的思考・判断能力については、考えることを面倒がるということはないが、現実社会のさまざまな事象を教科書の学習内容と関連させて考えられず、教科書の知識・理解に偏り一面的な学習になっている生徒も多い。また、既習の知識をもとに比較・関連・発展させて考えるということができず、その時間の範囲だけで考えようとする生徒が多い。

地方の政治については、「ポイ捨て禁止条例」「循環型社会」など地域の特色を示す言葉はある程度知っており、地方公共団体の活動や目的など経験的に感じてはいるが、そのしくみや根底にある自治の考え方やその意義や問題点についての思考は浅く、住民の一人としての視点も弱い。

#### (3) 指導の構想

全体の流れとして最初に地方の政治についての基礎基本となる政治のしくみや内容、語句の意味などを確認し、次に地方自治の重要性、問題点を考えさせ、最後にそれらを踏まえて自分たちの住むまちについてどうかわってあげたいのか考えさせたい。

地方の政治のしくみ、内容については、首長が直接選挙で決められること、住民による条例提案、解職・解散などの直接請求権があることなど国の政治との比較から違いを焦点化し地方自治の考え方やその意義を理解させたい。

地方自治の問題点については、地方分権によって地方の独自性を発揮できるようになっているもののその財源が乏しいことを具体的な紫波町の財政から考えさせたい。特に、地方税より国からの補助や町債が多いことに気づかせ、より良い町づくりのためどんなことが大切かさまざまな視点(多面的・多角的)から考えさせたい。

### 3 単元の目標

- 現代日本の政治は、中央と地方の政治に分類できることに着目させながら身近な地域の政治や住民の政治参加のあり方について、意欲的に学習させる。 < 関心・意欲・態度 >
- 地方自治が直接民主制の手法を導入している理由について、具体的な事例や制度に基づき多面的・多角的に考察させる。また、将来の主権者、住民としてのあり方や責務について公正に判断させる。 < 思考・判断 >
- 地域づくりの課題、地方の政治の課題について、学習の過程をレポート作成、討論、提言などさまざまな方法で表現し、友達や地域に向かって発信させる。 < 技能・表現 >
- 地方自治のしくみを理解させ、その知識を身につけさせる。また、地域の特性を生かした「まちづくり」の重要性に気づかせ、関心を持って積極的に参加することが大切であることを理解させる。 < 知識・理解 >

### 4 指導計画（6時間）

わたしたちと地方自治	1時間
地方分権と住民参加	1時間（本時）
市町村合併と地域づくり	1時間
まちづくりを調べる	2時間
わたしたちと日本の政治	1時間

### 5 本時の目標

- 地方財政が、地方交付税交付金や国庫支出金など国や県からの補助や地方債でまかなわれていることを理解できる。
- 紫波町の財政の現状を知ることを通して、自分たちにできることはどんなことか、考えることができる。

### 6 本時の評価規準

		社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
具 体 の 評 価 規 準	おおむね満足 (B)	紫波町の財政の課題に関心を持つことができる。	紫波町の財政の現状を知ることを通して、自分達にできることを考えようとしている。		地方財政が地方交付税交付金や国庫支出金などの補助でまかなわれていることを理解できる。
	十分満足 (A)	紫波町の財政の課題に関心を持ち、自分達の問題として解決しようとしている。	紫波町の財政の現状を知ることを通して、ボランティア活動・祭り・イベントへの参加など自分達にできることを考えることができる。		地方財政が地方交付税交付金や国庫支出金などの補助でまかなわれていることを理解できるだけでなく、その問題点も指摘できる。
	(C)への支援	身近な資料を活用し関心を持てるようにする。	考える視点を明確にして自分の考えを持てるようにする。		資料の読み取りの方法を確認する。

7 本時の展開

		評価 ・ 支援	
	学習過程	生徒の活動	指導上の留意点
導入 5分	(1) 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習をしながら座っている。</li> <li>(1) 地方自治がどんな考え方で行われているか想起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治は、住民の手で住民のために行われるものであることをおさえる。</li> <li>・身近な項目に注目させ、興味を引き付ける。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(聞き方L4)</p>
	(2) 学習課題の設定	(2) 紫波町の歳出額から予算額を予想する。歳出額と税収の金額が大きく違うことから課題をつかむ。	
歳出が税収より多くできる仕組みから紫波町の財政を考えよう			
展開 40分	(3) 課題の予想	(3) 課題について一人一人予想する。 ・「借金をする」「援助をしてもらう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験から考えさせる。予想できたか挙手で確認。</li> <li>・何を調べれば解決できるか考えさせる。</li> <li>・分かりにくい語句の意味を確認する。 プリントにより重要語句の確認。</li> <li>・色によって自主財源と依存財源を分ける。</li> </ul>
	(4) 課題の追求	(4) H18年度の歳入内訳を調べる。 ・主なものに地方税、地方債、地方交付税交付金、国庫支出金があることを知る。 歳入内訳から特色を考える ・歳入内訳から地方税より地方債、地方交付税交付金、国庫支出金など依存財源が多いことに気づく。	
	(5) 課題の解決	(5) 予算額の推移から、地方財政の抱える問題を読み取る。 ・国庫支出金の減少の影響を考える。 ・地方債の増加の影響を考える。 紫波町の現状で、自分たちにできることはどんなことか考える。 ・地域産業の活性化、町おこし ・祭り・イベント、ボランティア ・ ・	
終 結 5分	(6) まとめ	(6) 本時の学習でわかったことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめと自己評価</li> </ul>
	(7) 次時の予告	(7) 紫波町の「地域づくり」について学習することを確認する。	